

施策評価シート(令和2年度)

(基本施策の大綱) 4. 子育てと子どもの成長を支える環境の充実

(基本施策) (1) 子どもたちの豊かな学びと成長

(評価担当者)

教育部長

亀山 隆

■基本施策が目指す姿

子どもたちが、将来の自立につながる生きる力を身に付けています。

■関連する分野別計画

亀山市学校教育ビジョン

■成果指標

		単位	現状値		実績値					目標値
					H29	H30	R1	R2	R3	
1	コミュニティ・スクール実施校数	校	3	H28	3	6	9	12		8
2	普通教室等への空調機設置率(小)	%	36.2	H28	44.3	49.7	100	100		100
3	普通教室等への空調機設置率(中)	%	50.0	H28	50.9	100	100	100		100
4	普通教室等への空調機設置率(幼)	%	25.0	H28	25.0	25.0	100	100		100
5	学校評価アンケートにおける授業理解度(小)	%	88	H27	88.7	88.6	87.9	90.9		92
6	学校評価アンケートにおける授業理解度(中)	%	83	H27	80.3	81.0	87.1	87.8		85
7	学校評価アンケートにおける学校満足度(小)	%	91	H27	91.5	91.0	91.0	91.0		92
8	学校評価アンケートにおける学校満足度(中)	%	91	H27	88.3	83.9	92.6	94.0		92

■市民アンケート調査

項目			現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1	小中学校の施設や設備が整っている	重要度	1.44	1.38	1.40	
		満足度	0.40	0.43	0.43	
2	学校教育の内容や取組が充実している	重要度	1.50	1.41	1.42	
		満足度	0.05	0.29	0.26	
3	青少年を見守り応援する活動が行われている	重要度	1.44	1.39	1.34	
		満足度	0.39	0.55	0.52	
4		重要度				教育環境や学習内容、青少年へ見守りのいずれもが大きく変化していない。重要度・満足度とも高い水準にあり、市民の関心度も高い施策であることがうかがえる。ただ、青少年の見守り活動の重要度についてはこのところの青少年の問題行動の減少とこれまでの各地域での取り組みの浸透が考えられる。
		満足度				
5		重要度				
		満足度				

■総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
A 順調に進んでいる	成果指標での達成度は高く、授業理解度の向上や学校満足度の高い水準での推移からも、コロナ禍において臨時休業などの不測の状況が発生している中で、きめ細やかな取り組みやGiGAスクール構想の急速な進展などの取り組みをおこなうことができ、個別の施策の方向性の評価も概ねAの評価となっている。家庭教育や地域等の交流活動、職員研修など感染症拡大防止の観点からやむを得ない事情を抱える中で、オンライン学習に向けた環境整備や臨時休校時のICT等を活用した学力保障、さらに感染症対策としての修学旅行キャンセル時の補助金交付や用品配備や施設改良なども含めて様々な教育課題に関して柔軟に対応したことがこの成果につながったと考えられることから、総合評価をAとした。
反省点・課題	
子どもたちの育ちのための学びの展開については、一人一台端末が整備された中で、多様な活用方法に対応させるしくみづくりとその実践の積み上げが求められる。また、ICTを活用して「学びの個別最適化」を図るとともに「誰ひとり取り残さない学びの展開」を大局的に進めていく必要がある。学びの環境の充実については、事業としての井田川小学校校舎増築は完了したものの、中学校での全員喫食制給食の在り方や施設の長寿命化などの喫緊・中長期的展望での課題が抽出されたことから、これらの方向性を見定めていく必要がある。家庭教育については、今後その柱になると想定される「かめやまお茶の間10選(実践)」については、学校において強調週間を設定して浸透を図ったが、その回数や期間等の拡充によってその意図の共有や気運の醸成を図る必要がある。	

今後の展開方針

教育の場におけるICT活用は校内外での研修の場の充実を図り教職員のスキルアップを図っていく。家庭教育も含めコロナ禍で実践ができなかった体験活動などについては、どうすれば展開できるのかを前提に様々な手法を模索していく。これらを含む多様な教育課題に対しては、いずれも長期的な展望を見据えて体系的に取り組む必要があることから、本年度改定作業を行っている教育大綱において大局的な展望を見定め、さらに同じく改定作業を行っている学校教育ビジョンや生涯学習計画において具体的な課題解決に向けて施策の方向性を位置付けていく。そのうえで第2次総合計画後期基本計画に施策として整理していくプロセスにおいて、手法や成果の検証を重ねてより実効性の高いものとしていく。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向① 地域とともにある学校づくり							
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
A 順調に進んでいる		活動	コミュニティスクールにおける活動等を中心に、各学校が地域や保護者等と連携した特色ある学校づくりを推進した。各学校で行われている取組に関する実践交流を行うとともに、学校運営協議会未設置校に関しては「コミュニティスクール設立準備校」に指定して、学校運営協議会設立のサポートを行った。	評価	学校運営協議会の設置は目標を前倒して推移しており、令和3年度からは市内全ての小中学校がコミュニティスクールとなることが決まった。 コミュニティスクールを核とした特色ある学校づくりの交流に関しては、対面での交流会が実施できず「実践集」を作成し配付することにとどまった。		
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	19148	特色ある学校づくり事業 (小学校費)		標	3,198 / 2,833	A	A
	19149	特色ある学校づくり事業 (中学校費)		標	784 / 761	A	A
	19182	コミュニティスクール推進事業		標	185 / 0	A	B
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向② 学びの環境の充実						
(個別判定)	活動	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】	評価	【左記の活動により、施策は推進できているか】		
A		井田川小学校校舎増築・給食室改修事業を完了し、教室不足や給食室のスペース不足等に対応するとともに、各施設の状況に応じた整備を実施した。 また、中学校給食実施事業については、デリバリー給食の充実を図るとともに、「学校給食の在り方について」及び「学校給食提供に関する今後の方向性」を示すことで一定の方向性を定めた。		計画的に施設の改修事業を進めるとともに、緊急的な対応を行うことで子どもたちの快適な学校生活と施設の長寿命化を推進することができ、学びの環境整備ができている。 また、中学校における学校給食の在り方について一定の方向性を定めることができ、学校における子どもたちの生活環境の充実を推進することができた。		
順調に進んでいる						
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	19013	井田川小学校校舎増築・給食室改修事業	主	222,160 / 218,839	A	A
	17072	中学校給食実施事業	主	42,700 / 41,769	A	A
	19008	施設整備費 (小学校費)	標	10,338 / 10,338	A	A
	19027	施設整備費 (中学校費)	標	2,585 / 2,585	A	A
	19043	施設整備費 (幼稚園費)	標	1,700 / 1,700	A	A
	19273	地場農畜産物利用推進事業	標	300 / 252	A	A
事業以外の取組	内容				活動	成果
	通学路交通安全プログラムによる通学路点検				B	B
	新型コロナウイルス感染症対策にかかる施設改善・用品配備				A	A

施策の方向③ 子どもたちの育ちのための学びの展開								
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】			【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	「亀山市学方向上推進計画(第3版)」を中心に、児童生徒の「確かな学力」の向上や、「わかる」「できる」「楽しい」授業を目指し、授業改善を行った。			評価	「学力の中心課題として「読む力」「読み取る力」「書く力」の向上を明確に示し、教職員の授業改善とともに施策を推進した。また、1人1台のタブレット端末配置はタイトなスケジュールであったが、年度内に事業を終えることができた。一方、中学校の職場体験学習、体育・文化活動、教職員の研修等、対面や交流が大幅に制限されて十分に推進できなかった事業もあった。		
		国によるGIGAスクール構想の前倒し実施や、人権教育を学校だけでなく、市民や多様な主体とともに推進できるよう「人権教育推進協議会」の組織改編を行った。						
まずまず進んでいる								
関連事業	番号	事務事業の名称			区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17073	英語教育推進事業			主	30,111 / 29,568	A	B
	17074	情報教育推進事業 (小学校)			主	303,603 / 287,572	A	A
	17075	情報教育推進事業 (中学校)			主	139,268 / 130,566	A	B
	17076	学校図書館支援事業			主	12,200 / 11,894	A	A
	17077	学力向上推進事業			主	3,800 / 3,261	A	B
	19015	体育・文化活動支援事業 (小学校費)			標	481 / 437	B	B
	19030	体育・文化活動支援事業 (中学校費)			標	31 / 20	B	B
	19033	中学校体験活動支援事業			標	214 / 175	A	A
	19105	幼児教育推進事業			標	2,171 / 1,656	A	A
	19106	教職員研修事業			標	1,497 / 984	B	B
	19271	道徳・人権教育推進事業			標	807 / 511	A	A
事業以外の取組	内容						活動	成果
	ICTと通信教育を併用した学習保証の推進						B	B
	修学旅行違約金等の補助金交付						A	A

施策の方向④ 家庭・地域の教育力の向上						
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】		
B	活動	基本的な生活習慣の確立、自己肯定感の向上を軸とした家庭教育出前講座を開催するとともに、子育て家庭に向けた応援メッセージ「かめやまお茶の間10選(実践)」の定着・浸透を図るため、強化週間を設定し、各学校・園を通じて各家庭における取組を進めた。	評価	新型コロナウイルス感染症の影響により、家庭教育出前講座の開催を希望していた園が中止せざるを得ない状況であった。行政の押し付けにならないよう、学校・家庭・地域の連携により、持続的に少しずつ意識醸成を図っていく必要がある。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17086	かめやまげんきっこ育成事業	主	1,358 / 615	C	C
	19132	子育て学習展開事業	標	1,100 / 183	B	B
事業以外の取組	内容				活動	成果

施策の方向⑤ すべての子どもの学びを支える教育の推進						
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】		
A	活動	支援が必要な子どもに対して、個に応じた対応を行うとともに、市の福祉部局や県の児童相談所、県立こども心身発達医療センター等の医療機関等との連携を進め、感染症対策も含め誰一人取り残さない教育の推進を図った。また、全ての子どもの学びを支え、35人を超える過密学校の解消と、算数・数学科、英語科の少人数によるきめ細かな授業を行った。	評価	市の子ども未来課子ども支援Gや、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門職と連携して、多職種による「チーム学校」としての支援を推進することができた。また、不登校児童生徒に対してICTを活用した学びの保障を行う等、新たな取組にも着手している。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17078	個の学び支援事業(幼稚園)	主	12,256 / 11,576	A	A
	17079	個の学び支援事業(小学校)	主	65,090 / 63,063	A	A
	17080	個の学び支援事業(中学校)	主	17,300 / 15,991	A	A
	17081	少人数教育推進事業	主	26,000 / 24,129	A	A
	17082	生活困窮者自立支援事業(学習支援事業)	主	2,887 / 2,481	B	B
	20005	就学援助家庭オンライン学習支援事業	主	18,700 / 17,948	A	A
	19259	特別支援教育推進事業	標	348 / 282	A	A
	19116	生徒指導充実事業	標	2,104 / 1,734	A	A
	19111	適応指導教室事業	標	3,482 / 3,312	A	A
	19286	外国人児童生徒教育支援事業	標	2,980 / 2,855	A	A
事業以外の取組	内容				活動	成果

施策の方向⑥ 青少年の健全育成と青少年活動の促進						
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】		
A	活動	青少年育成市民会議が主体となり、第3次「亀山っ子」市民宣言」具現化行動計画に基づき、地域で子どもを育む意識醸成を図る取り組みを進めた。 また、青少年総合支援センターにおいて、補導員による地域・学校と連携した子どもの見守りと、支援員による青少年の社会的自立の支援を実施した。	評価	新型コロナウイルス感染症の影響により、サマーキャンプなどが中止となったが、青少年育成市民会議による地域における子どもの育む取り組みが持続的に行われた。 また、青少年総合支援センターの補導員・支援員の地域・学校など関係機関と連携した活動により、青少年に対する支援を推進できた。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	19099	青少年健全育成費	標	3,798 / 3,350	B	B
	19100	青少年総合支援センター費	標	13,914 / 12,930	A	A
	19101	成人式開催費	標	1,392 / 1,320	A	A
	19289	青少年自立支援事業	標	4,334 / 4,287	A	A
事業以外の取組	内容				活動	成果